

自分の理想の「まち」が現実  
にあったらどうだろう。子ども  
なら、公園があるまち。大人な  
ら、一人でいられるカフェや書  
店。障害者や高齢者なら、楽に  
移動できるまちなら住み続  
けたいと思うことだろう。誰  
でも住み続けたいと願うま  
ちとは、どんなまちだろうか。  
また、そんなまちをつくるに  
は、どんな事が自分達にでき  
るだろうか。

SDGs・EdutのWNの取  
組事例によると、これからのま  
ちづくりには、子どもから高  
齢者まで、いろいろな世代の人  
が集まって、みんなが一緒に暮  
らせることが大切になってくる  
そう。インフラという生活を支  
える基本的な設備がある。だが  
それは、生活をサポートするた  
りけで、まちをつくるのは自分達  
だ。と思う。埼玉県の朝霞のま  
ちでは住む人だけではなく、地  
域の人たちが集まれる公園や保  
育施設、買い物ができる場所な  
どもつくり、交流が活発になる

工夫をしているそうだが。これは、交流が活発になるようにする工夫だからその施設に行かなければ交流が活発になる事はない。だからまちをつくるのは自分達だと思つた交流が活発になると、住みやすいまちになっていくのだと思ふ。

確かに、交流が活発になつたって何の意味がないかもしれない。しかし災害時に地域の人との交流がないと助け合う事ができないのだ。日頃から地域の人との交流をして、いざというときに備え、住み続けられる明るいまちになるようにすることが、私達にできることだと思ふ。

### 〈出典〉

「EDU TOWN SDGs」

世界の国や地域が協力して  
持続可能な開発を目指す

SDGs

東京書 藤